

スポーツ科学研究, 1, 18-19, 2004 年

## 第 2 回日本スポーツ精神医学会を開催して

### Report: Japanese Association of Sports Psychiatry, The Second Annual Meeting

内田 直

Sunao uchida, MD PhD

早稲田大学スポーツ科学学術院

Faculty of Sport Sciences, Waseda University

2004 年 9 月 18 日(土)、早稲田大学本部キャンパス小野梓記念講堂にて第 2 回日本スポーツ精神医学会総会・学術集会を学会会長として開催した。本学会は 2003 年秋に永島正紀理事長(前 駿河台日大病院精神科部長、現 聖徳大学教授)を中心として、スポーツと精神医学のかかわりの中で仕事をしている人たちの、交流や研究発表の場を提供することを目的として作られた。第 1 回の設立学会は 2003 年 9 月 20 日に駿河台日大病院にて行われた。今回の学会は、これに引き続き行われる第 2 回目の学会である。私は設立当時から事務局長として関わっている。

設立時に本学会の活動に関わる 3 つの領域として、①精神医学の知見をスポーツ活動に応用する、②スポーツ活動を精神科医療に応用する、③スポーツ活動と脳機能を検討するという 3 つが掲げられた。第 1 番目の領域は、スポーツ選手に見られる精神的障害についての治療と予防についてである。具体的には、オーバートレーニング症候群などに見られるうつ病類似の精神症状や、女子スポーツ選手に見られる摂食障害(食行動異常)などを取り上げている。そのほかに、スポーツ選手の睡眠障害なども今後の課題となろう。2 番目の領域は、もともと精神科疾患に罹患した患者さんへの

スポーツの応用である。これまでの研究で、スポーツに抗不安作用、抗うつ作用があることが示唆されており、これらについて更に実証的な知見を得ながら臨床に応用していくことが重要である。また、精神障害者スポーツの振興もまた、スポーツと精神医学の係わり合いの中では重要なテーマである。第 3 番目の領域としては、スポーツと脳機能の関係についての基礎研究である。この領域については、第 1、第 2 番目の領域の背景にある神経生物学的メカニズムを明らかにするという点でも重要であるし、またスポーツに関わる脳機能からスポーツ医学的あるいはトレーニング科学的観点から新しい視点を見出すという方向性も考えられる。さて、2 回目の本学会は参加者 99 名のであった。小規模ではあるが、上記のような視点でスポーツと精神医学に興味を持っている人たちの交流の場としての役割は何とか果たせたのではないかと考えている。午前中は自由演題で 13 題の公募演題の発表があった。それぞれ、スポーツ選手に見られる摂食障害や、大学スポーツ選手に見られる生涯の特徴、あるいは精神障害者に対するスポーツ療法、障害者スポーツの推進、あるいは高地トレーニング時の生理学的変化など、3 つの領域すべてにわたる発表があった。

午後は、会長講演として、「スポーツ精神医学と脳科学」という演題で私が講演を行った。講演の中でスポーツの中核への影響として、うつ病の中核メカニズムを紹介し、オーバートレーニング症候群との関連について神経生物学的に双方の疾患について研究を進めていく必要性を示唆した。また、スポーツの睡眠への影響、スポーツと脳血流の変化についての研究についても述べた。

午後2番目には特別講演として荻原健司氏の講演があった。荻原氏は、参議院議員としてスポーツに関連した行政を今後推進していかれる立場にあるが、講演ではオリンピック選手として金メダルを獲得するまでの自分の努力の過程や、父との対話についてなど紹介された。オリンピックにおいて輝かしい記録を残したアスリートによる経験を交えた講演は、多くの聴衆の心をひきつけた。

午後3番目の講演は、山田ゆかり氏による「スポーツとセクシュアルハラスメント」についてである。山田氏はスポーツライターとしてこの問題に取り組んでこられており、スポーツ界において監督やコーチから女子選手に対して行われるセクシュアルハラスメントの深刻な実態について話が合った。高校生の選手に対して行われたセクシュアルハラスメントがその後の選手の人生に大きな影響を及ぼしている実例などが紹介された。

最後に、「スポーツ精神科医の役割」と題してシンポジウムが行われた。シンポジウムの構成は以下のとおりである。

- 精神科患者に対するスポーツ療法の可能性  
永島正紀（精神医学）  
聖徳大学人文学部
- トップスポーツにおける精神科医の役割  
河野一郎（スポーツ医学）  
筑波大学大学院人間総合科学研究科
- スポーツカウンセリングにおける精神科医の役割

鈴木 壯（臨床心理学）  
岐阜大学教育学部

- スポーツ選手の摂食障害と精神科医の役割  
西園 文（精神医学）  
東京都精神医学総合研究所  
児童思春期研究部門
- 精神障害者スポーツ振興における精神科医の役割  
岡崎伸郎（精神医学）  
仙台市精神保健福祉総合センター
- 健康スポーツにおける精神科医の役割  
竹中晃二（行動科学）  
早稲田大学人間科学部

シンポジウムにおいては精神科医だけでなく、スポーツ医学の分野から河野一郎氏、スポーツ心理学の分野から鈴木壯氏と竹中晃二氏に参加いただき、それぞれの分野から今後スポーツ精神科医がなすべき役割についての発表があった。精神科医とスポーツとのかわりについては、未だ多くの人が十分な理解を持っていないのが現状であり、今回のシンポジウムではそういった溝を埋める役割も果たしたのではないかと考えている。

総じて、今回の学会は昨年からはスポーツと精神医学の係わり合いに興味を持つ人たちの交流が、更に進んだという印象を持つ学会となった。しかしながら、この分野はまだ十分に成熟しておらず、今後更に会員を増やし、また精神科医の中にもスポーツ医学に興味をもつ人材を増やしていく必要が感じられた。なお学会入会希望者は、下記までお問い合わせください。

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-2-6 第2泉商事ビル 5F

(株)MA コンベンションコンサルティング内 日本スポーツ精神医学会

Tel 03-5275-1191(代表) / Fax 03-5275-1192

ホームページ: [www.f.waseda.jp/sunao/jasp](http://www.f.waseda.jp/sunao/jasp)